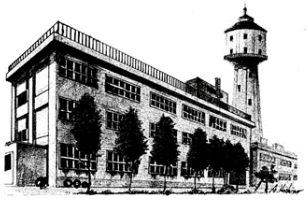
新潟県立長岡聾学校　学校だより

はくちょう

令和５年３月９日発行



〒940-0093　長岡市水道町 2-1-13　TEL　0258-32-1007

白鳥に込められた願い

校長　西山正樹

「３月１０日は、長岡聾学校の創立記念日です。学校の誕生日ですね。今年で、何歳になると思いますか。なんと１１８歳になります。みんなで、学校の誕生日をお祝いしたいと思います。

ところでみなさん、長岡聾学校の校章を知っていますか？

この校章は昭和２９年（１９５４年）に制定されたそうです。今年は２０２３年ですから、今から６９年前のことです。真ん中には、白鳥が描かれていますね。

このように、白鳥は、長岡聾学校を表す鳥となっています。

では、どうして白鳥なのでしょうか。実は、とっても古い『日本書紀』という本に書かれているお話から白鳥が選ばれたそうです。お話ができなかった皇子様が、白鳥を育てるうちにお話ができるようになったという内容です。

今から６９年前、長岡聾学校では、子どもたちの話す力が高まってほしいという願いから、このお話に出てくる白鳥を校章にしたそうです。

校歌の中にも、大きく力強くとぶ白鳥のように『心つよく、心たかく』を目指して、皆さんに頑張ってほしいという願いが込められています。

このように、白鳥は私たちの学校にとって、大切な願いがこめられた鳥ということが分かりますね。今日は、創立記念集会ですので、校章の白鳥についてのお話をしました。以上でお話を終わります。」

３月７日に行われた創立記念集会で全校にお伝えしたお話です。冬になると白鳥が長岡聾学校の校舎の上を飛んでいくことがあり、校長室の窓から見上げたこともあります。白鳥に込められている願いを知り、これからも話す力を高めるように頑張ってほしいと思います。

今年度も感染症対応が求められた年となりました。それでも少しずつ制限が緩和され、今までに近い長岡聾学校の教育活動が行われるようになってきています。令和５年度は、さらに幼児児童生徒の活躍する姿をご紹介できるように取り組みたいと思いますので、これからも皆さんのご理解ご支援をよろしくお願いいたします。

今年度のきこえ相談について

支援部

今年度も、感染対策を行って夏のきこえ相談会を実施いたしました。コロナ禍での感染拡大防止のため、「手指や使用教室の消毒」、「距離の確保」、「十分な換気」、「動線の指定」、「健康観察用紙の記入」などに配慮して行いました。今年度は、のべ２２件の相談がありました。コロナ禍で以前より縮小して実施するようになり３年となります。定期的な聴力測定や相談が必要な子どもたちが来られていないのではないかという心配があります。感染対策を十分行って、以前の規模に戻すことも考える時期かもしれません。また、最近の傾向として、片耳難聴の相談が増えています。片耳難聴の児童生徒の皆さんの学習や集団での過ごし方について、より良い方法を私たちも探っていきたいと思います。

支援部では通年「子どものきこえ相談室」を設置しています。新生児聴覚スクリーニング検査で難聴の疑いを指摘された乳幼児をはじめ、小学生以上の子どもたちへの支援を行っています。今後も難聴児やその保護者への支援と、関係機関への理解啓発に努めていきます。

あなたはどのような「社会人」を目指しますか？

進路指導部

高等部では、日々の学校生活や学習の中で、生徒たちの目指す姿（目標）としての「社会人」という言葉がよく使われます。２０歳→１８歳に成人年齢が下がり、その直前の高等部の３年間は、「子供から大人へ」「学生から社会人へ」の大事な移行期間であるということを、生徒も支援者も共に感じて過ごしていく必要があります。

さて、「社会人」とは、一般的には「学生」と区別するために使われる言葉で、決まった定義はないようです。(広辞苑では「①社会の一員としての個人　②実社会で活動する人」、ウィキペディアでは「社会の中で働く人を表す抽象的な言葉」と表しています。）では、学校生活の中で使っている「社会人」は、どんな捉えでしょうか？とある説明の中に、「社会人＝社会との関わりの中で、自身の役割を担い、かつ一定の責任を持って行動したり、生活したりしている人」という文言がありました。高等部の生徒たちの目指す姿として、この文言がとてもフィットしている感じがしました。

高等部（または高等学校）卒業後に「進学」を選択する生徒も、行き着く先は「社会人」です。その「社会人」の言葉の前に、どのような言葉を付けるか、そこがポイントです！（「挨拶がしっかりできる社会人」「ルールやマナーが守れる社会人」「人に優しくできる社会人」「一生懸命に仕事に取り組む社会人」など、いろいろ考えられますね。）

つまりは、「(自分は）どのような社会人になりたいか？」「(支援者は）〇〇さんにどのような社会人になってほしいか？」を具体的に明確にイメージすること、そして、その力を付けるためにどうしていくべきかを、考え、実践していくことが重要なわけです。（幼稚部、小学部段階から、このイメージや実践は始まっていますよ。）

今春卒業の高等部卒業生は、どのような社会人を目指していくのでしょうか？歴代の先輩方が歩んで行った道のりを追いつつ、自分らしい新たな道を開拓しながら、社会の中で胸を張って歩んでいけるよう願っています。

令和４年度　卒業生の進路先

学　部		卒業生数	進　路　先　等　　（ ）内は人数
中学部		2	本校高等部　産業技術科（2）
高等部	産業技術科	1	福祉サービス事業所（1）
	普通科	3	就職（3）（金属加工、食品製造、図書館業務補助）

今年度の寄宿舎の様子

この春に新しい仲間を迎え、寄宿舎生活がスタートしました。今年度も感染症対策を踏まえながら、たくさんの行事を実施することができました。

季節の行事として、七夕には本物の笹を準備して短冊に一人一人願いを込めて飾り付けをし、節分ではそれぞれの「やっつけたい鬼」を玄関ホールに掲示し、豆まきをして鬼退治をしました。夏のお楽しみ会では、お祭りをイメージして金魚すくいや型抜き、花火等を行い、冬には「ミッションクリアゲーム」を全員で楽しみました。どの行事もたくさん笑い、大いに盛り上がりました。

また、安全面では地震や火災を想定した避難訓練を行うとともに、Ｊアラートやその他様々な災害を想定した各棟への集合訓練を定期的に行い、災害時に迅速に避難できるように心掛けています。

寄宿舎には小学部から高等部までの幅広い年齢の子どもたちが在籍していますが、日課に沿った生活を送る中で、仲間とともに社会のルールやマナーについても考え、自らより良い生活が送れるよう、工夫して日々を過ごしています。これからも子どもたちの笑顔あふれる安心安全な寄宿舎にしていきたいと思います。

生活編

下校時の検温

グラウンド遊び

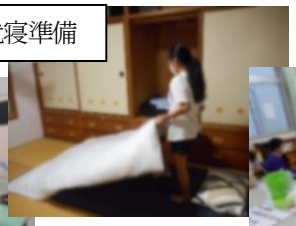
自分で洗濯

水遊び

浴室掃除

手洗い・うがい

食事の配膳


就寝準備

みんなで「スイッチ」

行事編

端午の節句

七夕

金魚すくい

おやつを一緒に

クリスマス

節分

花火

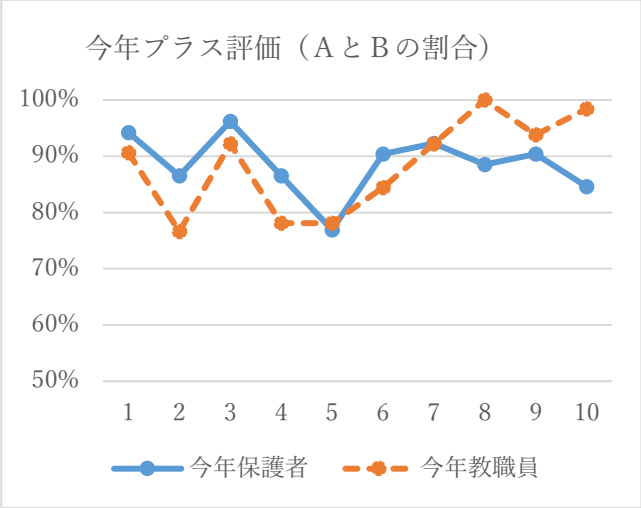
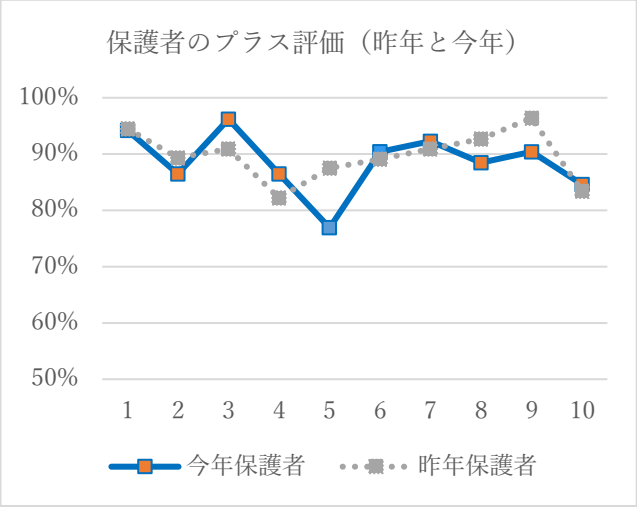
『ミッションクリア』ゲーム

「令和４年度の教育活動の振り返りと次年度の課題」

教頭　三村　陽子

12 月に学校評価アンケートを保護者と教職員に行い、以下のとおりの結果となりました。

【アンケート項目】回答方法　Ａ思う　Ｂやや思う　Ｃあまり思わない　Ｄ思わない　Ｅよく分からない
①子どもは、授業で学んだことが身に付いていると思いますか。
②子どもは、自分で考えたり、自分で決めたりする態度が身に付いていると思いますか。
③子どもは、集団や社会のルールを守り、他人を思いやる気持ちが身に付いていると思いますか。
④子どもは、健康的な生活習慣や、運動･スポーツに親しむ態度が身に付いていると思いますか。
⑤子どもは、語彙力や言語力、状況に応じたコミュニケーション力が身に付いていると思いますか。
⑥学校は、地域や他校と交流する活動に適切に取り組んでいると思いますか。
⑦学校は、子どもたちが分かりやすい、工夫した授業が行われていると思いますか。
⑧学校は、一人一人の子どもを大切にして、誠意をもって教育活動を行っていると思いますか。
⑨学校は、子どもの支援のため保護者・関係機関と連携していると思いますか。
⑩学校は、障害の理解や様々な研究･研修に取り組み、専門性の向上に努めていると思いますか。

保護者評価では、全体的に高い評価を得ました。項目③が、保護者、教職員ともよい評価でした。集団生活をする上で、ルールやマナーを守り、優しい気持ちをもった子どもに育っていると評価いただいたと考えております。項目⑤は､昨年度と比較すると約10ポイント下がっています。当校の子どもたちの一番の課題であり、保護者の皆様の期待するところであると受け止めております。授業の中で、相談する場面など、コミュニケーション力を育てる活動を組み入れたり、学校生活全般を通して、語彙力、言語力が向上するよう指導したりする等、改善をしてまいりたいと思います。

２月 21 日(火)には、学校評価委員会を行い、委員の皆様から、学習活動を参観していただくとともに、学校評価の説明をし、ご助言をいただきました。授業参観では、ICT 機器のさらなる活用や個に応じた指導の一層の推進について、評価いただきました。学校評価アンケートでは、項目⑧と⑩について、保護者と教職員の評価に乖離が見られる点についてご指摘を受けました。保護者と教職員の数値が同程度になるよう、保護者の思いに寄り添った支援をさらに進めてほしいとご助言をいただきました。